

目 次

○ ご挨拶

浜松商工会議所 青年部 会 長 松田和敏

浜松商工会議所 青年部 副会長 小野晃司

○ はじめに

浜松商工会議所 青年部 政策提言委員会 委員長 鈴木雅太郎

～「交流人口の増加策」～

1 浜松市民 80 万人を天竜へ

～遠足・宿泊体験は天竜へ～

2 天竜の「食」で人を呼ぼう

～地域資源の再発見と活用策～

3 自転車野郎は天竜が好き

～天竜サイクリングパラダイスの可能性～

4 一番鳥居を復活せよ

～その昔・有楽街北側が秋葉神社の入り口だった～

5 体験してみても分かる世界

～天竜体験ツアー「年間」スケジュール案～

6 情報は世界を巡る

～地域情報プラットフォームづくり～

～「定住人口の増加策」～

1 移住してきた方に聞く

～結局何が大変でした？～

2 ターゲットを決めた定住策

～階層別住宅促進～

3 情報の一元化で魅力アップ

～広告マン～から見た「浜松田舎暮らしの」PR法～

4 伝説は創り出せ

～他の街の成功事例に学ぶ～

○ おわりに

ご挨拶

商工会議所青年部の綱領に「次代への先導者としての責任を自覚し 地域の経済的発展の支えとなり 新しい文化的創造をもって 豊かで住みよい郷土づくりに貢献する」とあります。２００８年秋のリーマンショック以降の経済的打撃から、かすかに回復の兆しが見えてきた２００９年ではありましたが、今年度当初はまだまだ回復の道のりは遠く、社会も経済も大転換を迫られているという実感がありました。そうした背景の中で、綱領にあるように「豊かで住みよい郷土づくりに貢献する」には何をすべきか、どうすべきかを模索し、提言書という形でまとめさせて頂きました。人も組織も外的環境の変化にいかに対応できるかが生存の条件だとすれば、浜松市も合併という大きな環境の変化に対応して、より良い郷土となることを願ってやみません。この提言が郷土浜松をより良い方向に導き、地域の経済的発展の一助となることを心より願っています。結びに本提言書作成に際し、ご支援ご協力を賜りました全ての皆様に感謝と御礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

浜松商工会議所 青年部
会長 松 田 和 敏

私たちが住む浜松市は２００５年７月１日に近隣１１市町村と合併し、２００７年４月１日に政令指定都市へ移行しました。「ひとつの浜松」を目指す市政として経過した６年の歳月には、大きな成果を感じる一方で、いまだ成果を出せない課題が残されているのも事実です。浜松がより心豊かで、住むことに誇りを持てる地域として発展するために「中山間地域の活性化」をテーマとしました。なぜなら、この地域には「人口の急激な減少」という大きな問題があるからです。この問題を解決するために「交流人口の増大」と「定住人口の増大」の２つの側面から骨子を掲げ、政策提言委員会が中心となって調査・研究を進めました。今年度は、どこから読んでも取り組みができるよう、短編小説集のような読み切り型の政策提言書としました。この浜松をこよなく愛する委員会メンバーが取り組んだ成果ですので、ぜひお読みいただくだけでなく、中山間地域と「かわり」や「つながり」を積極的に持っていただき、ひとつでも実践していただくことが「住んでよし、訪れてよしのまち浜松」を形成する原動力になると信じています。最後になりますが、ご協力いただいた皆様にこの場をお借りして感謝と御礼を申し上げます。

政策提言書委員会
担当副会長 小野晃司

はじめに

～テーマ・提言内容の決定理由と提言活動について～

今回、政策提言活動をスタートするに当たり、二つの基本方針を掲げました。まず一つ目として、「一方的でない、提言される側も協力してくれる提言をする」です。そして二つ目が「青年部らしい具体的で大胆な提言をする」です。

まず一つ目ですが、提言活動そのものが提言する側の一方的なものになりがちで、このことが一般的に、提言が有効に生かされない一つの原因であると感じております。そこで提言される側にも受け入れられるよう、テーマ選定において市長・行政サイドも問題として認識しているが放置されているもの、あるいは進捗が無いものを提言とすることと致しました。そして二つ目ですが、その様な状況でのテーマになると得てして型にはまった在り来たりの物に成りがちで、それでは意味がありません。政策提言というものは浜松市商工会議所青年部にとって、その設立以来脈々と受け継がれてきた背骨の様な事業であり、アイデンティティーを示すものでもあります。その意味においても、青年部らしい大胆で具体的な提言を心がけることを方針と致しました。

テーマ選定に当たりましては、基本方針で示した通り、行政サイドとの問題認識を共有するため鈴木康友市長との懇談の時間を頂戴し、市長が認識している多くの問題点をお話しいただきました。その中に今回テーマとして掲げた「中山間地域の活性化」の問題が御座いました。実際わたくしも、市長のマニフェストにある「一つの浜松」という考え方に大変共感しております。中心部など目に見える部分の問題については多くの提言がされているものの、日常係わりの無い中山間地域の問題については殆ど無いのが現状です。また、中山間地域の活性化無くして一つの浜松も成し得ない、つまり浜松の真の発展は有得ないと考えましたので、今回のテーマと決定致しました。

では、なぜ中山間地域が活性化しないのか？その答えを見つける為、浜松市地域振興課の出前講座を利用させて頂き、また、天竜選出議員のみなさんのお話もお伺いしました。そこで分かった理由は「働く場所が無いことから来る人口減少」にあるということでした。実際浜松市が地域振興策として作成された「山里いきいきプラン」の中にデータが示されており、昭和 35 年から平成 17 年に掛けて、浜松市全域では 41.5%人口が増加しているのに対して、中山間地域はマイナス 46.2%と人口が半減しております。そしてその様な中、その解決策を考えたとき、この不況下において安易な公共工事や実現不可能な企業誘致策などには何の意味もなく、やはり、地域の自然・文化・歴史・特産などを利用した、地域の特性を生かした地に足の着いた持続可能な対策が必要であると考えます。

そこで私たちは、地域の特性を生かした持続可能な対策を創るため、調査・研究を行い、

平成 22 年度の政策提言として「住んでよし、訪れてよしの街づくり」を基本理念とし、「交流人口の増加策」と「定住人口の増加策」の二つの切り口から対策を作成いたしました。そして、「交流人口の増加策」から 6 つ

- 1 浜松市民 80 万人を天竜へ
- 2 天竜の食で人を呼ぼう
- 3 自転車野郎は天竜が好き
- 4 一番鳥居を復活せよ
- 5 体験してみても分かる世界
- 6 情報は世界を巡る、

「定住人の増加策」から 4 つ

- 1 移住してきた方に聞く
- 2 ターゲットを決めた定住策
- 3 情報の一元化で魅力アップ
- 4 伝説は創り出せ

の以上合計 10 個の中山間地域活性化の為の具体的な解決策を考え、提言としてまとめました。それぞれの対策が互いに共鳴し合い、スパイラルと成ってその効果が高まっていく対策であると確信しております。

それでは、ここより各提言内容のご説明をさせていただきます。最後までご一読の程、よろしくお願いいたします。

政策提言委員会
委員長 鈴木雅太郎

第一章 交流人口の増加策

1 浜松市民80万人を天竜へ

～遠足・宿泊体験は天竜へ～

浜松市民 80 万人を天竜へ

～遠足・宿泊体験は天竜へ～

【都市から中山間地へ】

中山間地域への交流人口を増加させると言っても、最初から市外に目を向けて外から人を呼び、交流をはかるのはかなり難しいと思います。まずは内側からできることに目を向けて考えてみますと、幸いにも浜松市には 80 万人もの人々が生活をしております。この 80 万市民が都市地域から中山間地域へ、積極的に出掛け、もっと強く交流を重ねることが「中山間地域の活性化」に繋がっていくのではないのでしょうか。都市地域と中山間地域が共生共助の関係にあり、互いに理解を深め、助け合う関係づくりが出来るよう、もっと意図的に交流を促す施策の一案として、次代を担う子供たちにターゲットを絞り、子供たちが今よりもっと広い範囲で交流を深めることができるよう、遠足・宿泊体験で中山間地域のいろいろなところへ行くことはできないかと考えました。

【野外活動の実態】

浜松市教育委員会に取材をしたところ、小中学校の遠足、宿泊体験などの野外活動は、「青少年が、徒歩または自転車で山野を跋涉し、あるいは各地の青少年と交歓し、指定された宿泊所またはキャンプ等で宿泊しつつ自然探求、郷土史の研究、スポーツ、音楽活動などを行う事業」だそうです。

浜松市の中山間地域には、山、清流などの雄大な自然と、山里や棚田などの文化的資源、各地に伝統文化や民俗芸能が色濃く残り、まさに野外活動には最適な場所だと思います。

現在、野外活動は、事前に浜松市教育委員会へ報告をすれば、大枠の基準はあるものの各学校が独自で場所や日程を決めることができ、自由に計画を立てることができます。しかし現状は各学校同士で校長会などを通じて多少の情報交換はあるものの浜松市内の全小中学校の 3 分の 2 は、毎年同じ場所で野外活動をおこなっているようです。

特に宿泊体験の実施場所は、いずれも中山間地域ではあるものの特定の 3 か所に偏っており、中学校では 50.7%、小学校ではなんと 90.6%の学校が利用しています。これではとても交流しているとはいえません。

H21 宿泊体験実施場所実績数

【中学校】

行 き 先	校 数
三ヶ日青年の家	15
かなわ野外活動センター	10
観音山少年自然の家	10
ヘブンスそのはらスキー場	5
朝霧野外活動センター	4
国立中央青少年交流の家	3
ふじてんスノーリゾート	3
国立妙高青少年自然の家	3
京都・奈良	2
森林公園 森の家	2
国立乗鞍青少年交流の家	2
その他（10箇所）	10

宿泊日数	校数
2泊3日	35
1泊2日	34

【小学校】

行 き 先	校 数
かなわ野外活動センター	59
三ヶ日青少年の家	40
観音山少年自然の家	18
天竜自然体験センター湖畔の家	8
その他（4箇所）	4

宿泊日数	校数
2泊3日	80
1泊2日	49

【実施場所が偏ってしまう理由】

なぜ野外活動の場所が偏ってしまうのか？

- 学校のカリキュラムを十分消化しつつ、野外活動をしなければならない。
- 学校のカリキュラムは全て同じで決まっているが、それ以外の上積みの時間割は、学校単位で独自に決めることができるので、野外活動を積極的に実施しているところと、ほとんど実施していないところがある。
- 新たな場所の情報を収集することに積極的ではないため、毎年ほぼ同じ場所で野外活動をしている。
- 安全・安心の確保がされているか判らない。
- 受け入れ側のプログラムが重要視されるので、今まで使用してきた実績のある場所が選ばれやすい。
- 予算は保護者が負担するので、安全面と併せて理解が必要。

実際、独自で場所や日程を決められる「自由」がある割には、カリキュラムとして野外活動にあてる時間の制限もなく、新たな場所の情報提供もなく、レギュレーションなどの「決まりごと」もないため、どうしても実績のある場所を選んでしまい、偏ってしまうようです。

【野外活動の可能性】

学校側、施設側双方の改善で、野外活動による交流の可能性が広がります。

まず学校側としては、安心安全の確保や、受け入れ側のプログラムなどをレギュレーションとして明確化することにより、施設選びの幅が広がります。

次に施設側としては、レギュレーションとして、「安心・安全の確保」のルールや、受け入れ側のプログラムの詳細を整えば、新たな施設の情報を学校側に提供することができます。

学校側、施設側双方が情報を開示することにより、目的に合わせた最適な場所をピックアップし、学年、季節ごとに中山間地域のいろいろな場所に子供たちを連れていくことが可能になります。

浜松市内の小・中学校全 198 校で少なくとも約 20,000 人以上の交流がそこには生まれます。

野外活動で子供たちが中山間地域を訪れて、自然や伝統文化に触れ、楽しい思い出を家に持ち帰り、家族でその情報を共有する。そしてまた、楽しかった場所へ出掛ける、「ひとつの浜松」の、同じ教育委員会だからこそ、このような交流サイクルが出来るのではないのでしょうか。

【遠足・宿泊体験は天竜へ】

最後に、浜松市教育委員会の取材の中で、今回の「遠足・宿泊体験は天竜へ行こう」の内容については

「文部科学省も宿泊体験を推奨していますし、市長の推薦があれば十分に可能です。」と心強いお言葉をいただいております。ぜひ「中山間地域のいろいろなところに、子供たちを連れて行け」とお声をかけていただきますよう、よろしくお願いいたします。市長のイニシアチブで必ず流れは変わります。子供たちの交流で中山間地域を活性化させ、「ひとつの浜松」を実現しましょう。

【公開資料・団体資料】

浜松市教育委員会資料

2 天竜の「食」で人を呼ぼう

～地域資源の再発見と活用策～

天竜の「食」で人を呼ぼう

～地域資源の再発見と活用策～

1 天竜の「食」

(1) 天竜の「食」の特徴

浜松市天竜区では農業者は、主にお茶、しいたけを生産しています。また、ちんげんさい、しきみ、じねんじょ、そばも特産品として挙げられます。

お茶や椎茸は天竜区全域、ちんげんさいは春野、天竜地区、じねんしょは春野地区で栽培されています。

(参照 浜松市農業振興基本計画 平成21年3月)

また鳥獣駆除の観点からも近年猪・鹿の肉が、淡水魚ではアマゴが注目されています。

特にお茶は全国でもトップレベルの品質を作りだす農家を擁し、「遠州・山のお茶」としてのブランド化が図られている途上にあります。

(2) 「食」による誘客施策

このような特産品を活用して誘客をした事例としては、主に季節ごとに各地区で催されるイベントがあります。(個別のイベント情報は別紙参照)

また最近では、農山村において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動としてグリーンツーリズムが注目され、その実施にも取り組んでいます。特に、お茶に特化した「グリーンティ・ツーリズム」なる活動も行われるようになってきました。

(3) 施策の波及効果

各地区で行われている催事に関しては告知はされているものの、まだ浜松市民全体に周知されているに至っているとは言えず、そのようなイベント自体あることを知らなかったという声が都市部では聞かれます。

またこのようなイベントにおいて、特産品をはじめとする飲食品はイベントの雰囲気盛り上げる意味で必要不可欠な要素ではありますが、その特産品だけで多くの人々を誘客するほどの付加価値は持ち合わせて

いないのが現状です。

(4) 「食」の特有事情

特に食品の特徴として、いくら品質が素晴らしく味がおいしいものであっても、一度それを口にすることがなければ、その魅力を十分に発揮できないものです。

本来ならば優れた品質の農林水産物を生産していながら、その価値・魅力を十分に伝えきれていない現状において、いきなり人を呼び込むことはかなりハードルが高いと認識せざるをえません。但し、イベントは文化的背景から物理的に開催地を移動することはできませんが、特産品であれば簡単に移動することができます。

つまり人を呼び込む前に、まず特産品の価値・魅力を味わってもらう必要があります。当然、都市部でのイベントでの特産品ブースは設置されていますが、影響の範囲がイベント来客者に限られていて、それ以上の広がりを見せることができません。

2. 学校給食による情報共有

(1) 波及効果の高い学校給食

天竜の特産品をより広範囲に、より多くの人に味わってもらう機会を増やすにはどうしたらよいか。このような視点に立って、様々な行政活動を俯瞰してみましたところ、小中学生を対象にした学校給食活動が良い選択肢と浮上してきました。

(2) 学校給食における地産地消

浜松市は平成 20 年度に浜松市食育推進計画を作成し、地産地消を推進しています。学校給食においては地場産品の積極的利用が期待されており、地場産の大根・さつまいも・葉ネギ・しらす・セルリー・パセリ・チンゲンサイ・たまねぎ・じゃがいも・みかんの 10 品目は年間の使用率（重量ベース）を 32.5%（平成 19 年度）から 35%（平成 24 年度）へ増やすよう目標値が具体的に示されています。（参照 浜松市食育推進計画 平成 20 年～24 年度）



地産地消の学校給食献立例

(左より大平台小学校、中野町小学校、浅間小学校のＨＰブログより)

(3) 教育委員会でのヒアリング

昨年平成22年12月に浜松市教育委員会にヒアリング調査を行ったところ、学校給食への地産地消の意欲は高く、大変期待がもたれるものでありました。

しかしながら、現場では期待の空回りが起きている状態で、浜松市内の様々な地区の特産品の使用には幾つかの課題が散見されました。

(4) ヒアリングから浮かび上がる課題

①情報共有の事例

まず特産品の相互利用を促進する仕組みが出来上がっていないことです。学校給食の献立は栄養士が作成しています。個々の栄養士は極力地域の農産物を使おうとしており、舞阪産の「のり」、春野の「しいたけ」、引佐の「しし鍋」等がそれぞれの地区内で相互に取り入れられた実績はあるのですが、あくまでもそれは当該地区の栄養士間の裁量によって実現されたものであり、全体での動きとしては見受けられていません。

②情報共有の仕組み

学校栄養士は各長期休暇期間に様々な勉強会を催しています。情報交換の場は県単位、市単位、各委員会単位と様々なレベルではありますが、そのような既存の枠組みの中に特産品を交流させる栄養士間の情報共有の場が設けられることができれば、確実に地区間の特産品の使用頻度・使用量は増加すると予想されます。

③特産品の供給

仕組み以外の問題点としては、安定的な供給の確保があります。

学校給食である以上、絶対的な供給確保が必要となります。旧浜松市の場合、献立の策定はおよそ１年前に決められます。そこで決められた量を１年後の天候を予測して確約することは農業者には困難です。特に地区を限定するリスクは地産地消には厳しい制約条件となります。

④ 特産品の物流

次に、物流の問題があります。

天竜地区からの農産物を誰が定期的に他地域への学校に運ぶことができるかということです。学校給食のオペレーションも地区ごとに異なる方式（自校式・センター式）を採用しており、それによって物流の取り組み方もかなり変わってきます。

また、毎日の給食である以上朝ある一定の時刻までには各地区・各学校に届ける必要があります。そのような地区間の物流支援がないと実現は難しいです。

（５）まとめ

上述された課題を一つ一つ解決していくことができれば、学校給食を通じて確実な食の交流が根付きます。イベントはお祭りの華やかな交流促進活動と見受けられますが、その前に土壌づくりとして食を実際に味わう交流活動を行わないと、継続性のある人的交流には結び付かないと考えます。

従いまして学校給食を通じた以下の提言を致します。

- ① 浜松市レベル（国や県レベルではなく）の現存する枠組みの中で、学校栄養士間の情報共有の場を設け、各地区の特産品の交流を図ること。新規の枠組みを作ることは、学校栄養士を現場から遠ざける恐れがあります。
- ② 特産品の生産者及び仲介業者といった供給側と栄養士を代表とする需要側とのメニュー策定、必要量、スケジュール、物流体制に関する情報交換の場を設けること。

【参考ＨＰ】

浜松市教育委員会公式ＨＰ

<http://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/shikyoi/index.htm>

【公開資料・団体資料】

山里いきいきプラン

浜松市農業振興基本計画

浜松市食育推進計画平成 20 年～24 年度

【発行者】

浜松市

浜松市

浜松市

3 自転車野郎は天竜が好き

～天竜サイクリングパラダイスの可能性～

自転車野郎は天竜が好き

～天竜サイクリングパラダイスの可能性～

1 クリーンなイメージ自転車

- (1) 自転車は人力だけで動かす陸上の乗り物の中で一番スピードがあります。
- (2) 二酸化炭素削減に効果があります。
- (3) 自転車の利用者の多い国は医療費が少ないという事実があります。

2 自転車人口は年々増加

- (1) 「自転車大国」この言葉を聞いてどこの国を思い浮かべるでしょうか。2005 年におこなわれた調査※1によると、日本の自転車保有台数は約 8,600 万台、つまり、国民 1.5 人につき 1 台の自転車を保有していることになります。これは米国の 2.6 人に 1 台※2、フランスの 2.6 人に 1 台※3、中国の 2.7 人に 1 台※4 と比べてもわかるとおり、世界でもトップクラス。通勤・通学、日常の買い物に、そしてサイクリングなどスポーツや余暇を楽しむ道具として、多くの国民が自転車に親しんでいる日本は、世界的自転車大国です。
- (2) サイクリングなどのスポーツや余暇を楽しむ部分では欧米に比べて圧倒的に少ないのが現状です

※1(財)自転車産業振興協会自転車統計要覧(第 41 版平成 19 年 11 月発行)による
※2 1998 年統計による※3 2000 年統計による※4 2004 年統計による

3 自転車野郎はよいサイクリングコースを常に見ている

- (1) 天竜はトレーニングコースとして最適である
 - ① 自動車が少ないので安全です。(自転車の事故は出会い頭が一番多い)
 - ② 自転車野郎はアップダウンのあるサイクリングコースが大好きです。
 - ③ 自転車野郎は道に迷ってしまうぐらいのほうがおもしろいと思っています。(東海道筋は道が平坦で誰でも知っているのでおもしろくないと思っています)

- (2) 良いサイクリングコースだと認知されれば世界中から「サイクル野郎・女子」が来る可能性がある

4 『自転車野郎は』有名サイクルショップに集う

- (1) 浜松には全国から自転車野郎が足を運ぶといわれている「ミソノイサイクル」があります。



- (2) ミソノイサイクルさんは「ミソノイレッシングチーム」というサイクリングのチームを持っておりますので「自転車野郎」の情報発信基地にはもってこいの場所ではないかと思います。

5 「ミソノイサイクル」御園井社長にお話を伺ってみました



- (1) すでに、旧引佐町では「奥浜名湖チャリ天プロジェクト」なるものが地元商工会が先導して始動しているとのこと



- (2) 我が国には自転車専用の御守りがないそうなので、秋葉山を大々的に自転車の神様として売り出すのもおもしろいとおっしゃっていました。
- (3) 前市長は「浜松の地域を自転車のメッカにしたい」と頑張っていたが市長が変わってから行政にその動きが無くなってしまったとのこと。
- (4) 静岡県は「自転車」を推進したいのに浜松市は拒否の姿勢だともおっしゃっていました。
- (5) サイクリングマップ等の作成など自転車のことならいつでも話にのっていただけるとのことです。

6 『自転車の聖地 “天竜”』の可能性

- (1) 現在、わが国には『自転車の聖地』といわれているところはありません。
- (2) 所々で動きはあるが、認知されたところはまだありません。
- (3) 情報発信のやり方によっては自転車の聖地になりうるのではないかと思います。
- (4) 良いサイクリングコースだと認知されれば世界中から「サイクル野郎・女子」が来る可能性があります。

4 一番鳥居を復活せよ

～その昔・有楽街北側が秋葉神社の入り口だった～

一番鳥居を復活せよ

～その昔・有楽街北側が秋葉神社の入り口だった～

1 「一の鳥居」の歴史と秋葉神社のマグネット性能

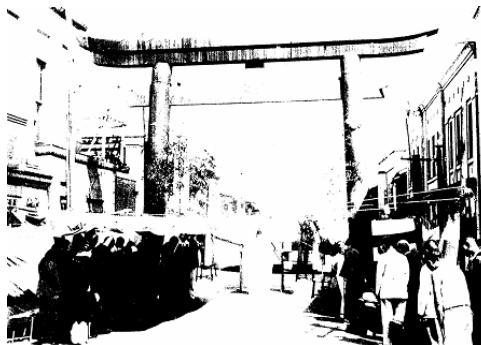
(1) 街中のシンボルだった「一の鳥居」

現在の有楽街の北側、ビオラ田町とりそな銀行の間に、かつて青銅作りの大鳥居が建っていました。昭和 17 年、戦争中に金属供出の対象となって解体されたこの鳥居は、火防の神、秋葉大権現「一の鳥居」と呼ばれていた鳥居であり、秋葉神社に参詣する関西方面の人々が最初に通る、参道の入り口でした。

「一の鳥居」は戦前の浜松の街並を知る人々にとっては馴染み深いシンボルでした。



平成 23 年の田町



昭和 17 年「一の鳥居」解体式

写真出典『浜松市民の 80 年』より

(2) 全国から徒歩で参詣客が来ていたという驚愕の事実

秋葉信仰が、庶民レベルで盛んになったのは江戸時代中期以降のよう
です。

江戸時代の秋葉神社は、三尺坊大権現を祀る秋葉社と、観世音菩薩を本尊とする秋葉寺とが同じ境内にある神仏混淆で、人々はこれらを事実上ひとつの神「秋葉大権現」として呼び、その信仰は全国に広まりました。特に、度重なる大火に見舞われた江戸には数多くの秋葉講というグループが結成され、大勢の参詣者が遠江の秋葉大権現を目指して参詣に訪れるようになりました。参詣者の賑わいはお伊勢参りにも匹敵するものであったといわれ、周辺に残る常夜灯の数々、茶屋の跡等、現在でも当時の隆盛の面影が残っています。

秋葉山に向かう主な参詣道は、関東方面の人々が利用する掛川からのルートと、関西方面の人々が利用する浜松からのルートがあり、後者の主発点が東海道浜松宿田町の「一の鳥居」だったのです。交通の便が悪かった時代において、現在の浜松市天竜区にある秋葉神社に、全国から徒歩で参詣客が訪れていたというのは驚愕の事実です。

(3) 時代の変遷

昭和 17 年、戦時の金属供出の対象となって鳥居が解体された跡地には石柱の記念碑が建てられていたようですが、その後交通の邪魔になるということで取り除かれ、現在は鳥居跡であることを示すものは残されていません。これは、時代の変遷、とりわけ耐火建築の普及等で住宅事情が一変したことにも大きな関わりがあると思われます。もはや時代が違うと見ることもできるでしょう。

しかしながら、以下の観点から秋葉神社を地域の資源として見つめなおすことは、多分に意義があり、とりわけ浜松の中山間地再興のために、交流促進の起爆剤として活用することには、大きな可能性があると考えます。

2 門前町の参道に繁盛商店街あり

中小企業庁が行った 2006 年度全国商店街実態調査によれば、「繁盛している」と認識していた商店街は、わずか 1.6%に過ぎないようです。その少数派である、繁盛している商店街の中には、有名な神社仏閣門前の「参道型の商店街」が少なくありません。

これは、神社仏閣が人を引き付けるマグネットとして機能し、人が訪れ帰っていくという流れが自然にできやすいということに起因します。

もちろん、神社仏閣門に人が訪れるというだけでは商店街の繁栄はなく、「いかに足を止めてもらうか」という重要なテーマをクリアしなければなりません。しかしながら、多数派である伸び悩んでいる商店街から見れば、人が訪れる「核」施設がある商店街は、それだけでよほどうらやましいものに違いありません。

秋葉神社は、かつて日本全国から参詣者を集めた強力なマグネットでした。現在でも、日本全国に約 800 社ある秋葉神社、秋葉大権現、秋葉寺の起源であることに変わりはありません。かつては、浜松市・浜北市・天竜市と、三市にわたって人々が歩いた秋葉路を、合併でひとつの浜松市となった現在、大きな参道と見立て、大きなスケールでまちづくりに活かしていくことはできないでしょうか。



伊勢神宮おかげ横丁



ヤキソバの富士宮 大鳥居

3 ストーリーのあるストリートづくりで「一つの浜松」に

(1) 「一の鳥居」復活の意義

浜松の中山間地域の再興のために、「一の鳥居」を復活することを提言します。市の力も借り、願わくは「現状回復」としての再建か、少なくとも記念碑を再建することができないでしょうか。

第一に、その意義は、ひとつの浜松としての象徴です。街中と天竜と結ぶ秋葉路は歴史あるものです。しかし、その歴史は知られなければ、ともすると風化してしまうものです。「一の鳥居」の再建は天竜地区と街中の人の心を結びつけ、共に助け栄えようとする意気込みの醸成に寄与します。

第二には、交流の促進です。浜松城に訪れた入場者は平成 21 年度 14 万人を突破しました。歴史ファンというものは、歴史の「ストーリー」

を追体験するために遠くからでも出かけてくるものであり、近年は「歴女」といって、歴史的観光地を訪問するのが好きな女性も増えています。彼らを浜松城だけで帰してしまうのはもったいないことです。

秋葉路には、「二の鳥居」もあれば、常夜灯の名残も随所にあり、「一の鳥居」から始まる「ストーリー」を明確にプロデュースしていけば、歴史ファンのみならず、浜松の街中に住んでいる人々にとっても地域を再発見し、天竜を訪れる機会となります。



小松 二の鳥居



常夜灯巡りもマニアがいる

(2) あの東京・秋葉原の地名も秋葉神社に由来

近年「オタクの街」・AKB48等で注目を集める東京・秋葉原（通称アキバ）も、起源をたどれば秋葉神社にゆかりがあります。明治2年に大火があり、明治天皇の勅命で現在の秋葉原駅構内の地に勧進された鎮火社が、広く信仰を集めていた秋葉大権現（あきはだいごんげん）が勧請されたと人々が勘違いし、「秋葉様」と呼んだのが地名の起源のようです。

オタク族といえば、彼等が「聖地」として訪れる神社があります。それは、埼玉県にある鷲宮神社であり、これは『らき☆すた』という漫画の舞台のモデルになったことから、愛好者が「聖地巡礼」と称して、何千人も訪れているものです。

昨今の秋葉原ブームも活用させてもらってはどうかでしょうか。すなわち、浜松を「アキバの故郷」としてぶちあげることです。

例えば、街中にコミケ等のイベントを誘致して、秋葉神社をオタクの故郷としてプロデュースしていく方法が考えられます。会場としては、ビオラ田町などがうってつけではないでしょうか。ここでも「一の鳥居」

再建が重要なストーリーづくりとなります。



埼玉県 鷲宮神社

(3) 浜松シティーマラソンは田町スタートで

現在、浜松の市民スポーツイベントである「浜松シティーマラソン」は、四ツ池公園陸上競技場発着で実施されています。

コースの走りやすさ、交通規制の問題等、さまざまな問題があるでしょうが、「一つの浜松」を実感できるコースがあってもいいのではないのでしょうか。すなわち、田町「一の鳥居」をスタートとし、秋葉神社上社を目指すコースです。距離にして実に42.1km。これは偶然にもフルマラソンの距離とほぼ一致しています。

もちろん、5kmコース・10kmコースと、スタートとゴールを調整します。市民を挙げて、街中と天竜を結ぶストリートを走りぬけるのです。あるいは時間をかけて歩くこともよいと思われます。

シティーマラソンは、走る人だけではなく、それを支えるボランティア等の人々の協力が必要です。障害は多いでしょうが、一つの浜松のために、市民が一体となって取り組むという、「やりがいのある」イベントになるのではないのでしょうか。

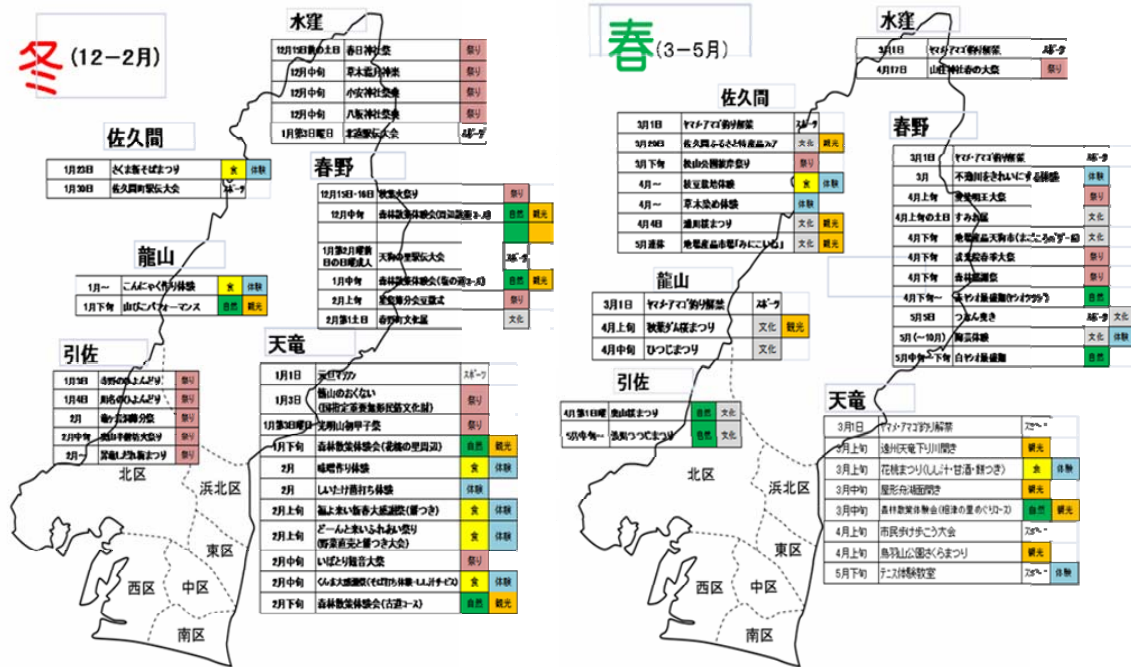


浜松シティーマラソン

5 体験してみても分かる世界

～天竜体験ツアー「年間」スケジュール案～

体験してみても分かる世界



イベントの数 冬 = 32

春 = 33



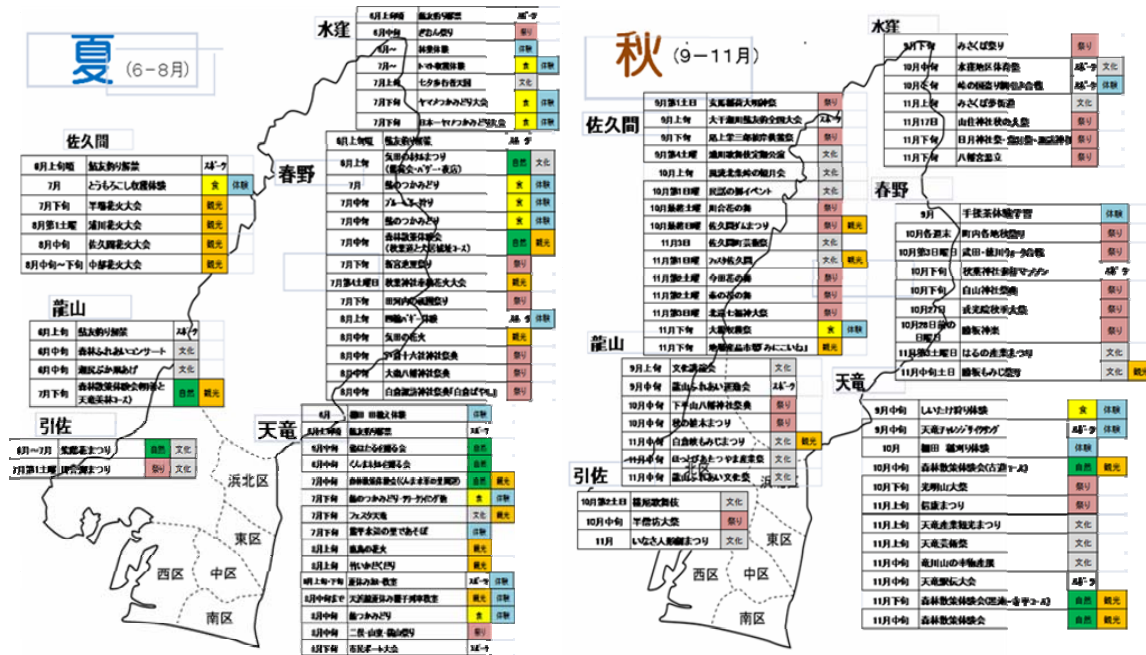
川名のひよんどり (引佐/冬/祭り)



秋葉ダムさくら祭り (龍山/春/観光)

現在、中山間地域では各地で数多くのイベントが開催されています。しかし、実際はイベントが開催されているにも関わらず、交流人口は増えていない状態が続いています。より多くの人に中山間地域に来てもらうためには、何を進めていけばよいのでしょうか。現状を把握するために、まずは季節別・ジャンル別に各地域のイベントを分類してみました。

～天竜体験ツアー「年間」スケジュール案～



夏 = 48 (体験型イベント多)

秋 = 53 (祭事・伝統行事多)



みさくぼ祭り (水窪/夏/祭り)



秋葉火祭り (春野/秋/祭り)

HP 浜松田舎暮らしより

年間を通してみると、規模の大小は様々ですが、特色をうまく活かした、地域性の豊かなイベントが各地で開催されているのが分かります。また季節別に見ると、春と冬に比べ、夏と秋がイベントの数が多くなっています。夏は花火大会など観光型のイベントと、「食」「自然」などの体験型のイベントが多く、また秋は「祭り」が主なイベントといえます。夏と秋ではイベントの数は同じでも、内容が違うのが分かります。交流人口が比較的多いといえる夏では、多くの体験型のイベントが開催され、多くの人が楽しんでいます。

年間体験イベント

月	日	イベント	地域	月	日	イベント	地域
10月		稲刈り体験	天竜	6月	以降	林業体験	水窪
	～4月	こんにゃく作り体験	天竜		以降	手作り紅茶体験	春野
	上旬	風流北条峠の観月会	佐久間		第2日曜	不動川をきれいにする体験	春野
	中旬	森林散策体験会	天竜			田植え体験	天竜
	下旬	峠の国盗り綱引き合戦	水窪		上旬	気田の秋まつり	春野
11月		大栗安棚田ウォーキング	天竜		中旬	くんまお粥を観る会	天竜
	第2日曜	不動川をきれいにする体験	春野	7月	～8月	トマト収穫体験	水窪
	下旬	森林散策体験会	天竜		中旬	フルーベリー狩り	春野
12月	中旬	森林散策体験会	春野		中旬	森林散策体験会	天竜
1月	中旬	森林散策体験会	春野		中旬	鮎のつかみどり	春野
	～3月	こんにゃく作り体験	龍山		中旬	森林散策体験会	天竜
	中旬	佐久間新そばまつり	佐久間		下旬	熊平水辺の里であそぼ	天竜
	下旬	森林散策体験会	天竜		下旬	ヤマメつかみどり大会	水窪
2月		味噌作り体験	天竜	8月	上旬	夏休みカヌー教室	天竜
	上旬	福よ来い新春大感謝祭	天竜		上旬	四輪バギー体験	春野
	上旬	どーんと来いふれあい祭り	天竜		中旬	鮎つかみどり	各地
	中旬	くんま大感謝祭	天竜		中旬	ヤマメつかみどり大会	水窪
	下旬	森林散策体験会	天竜		～15	天浜線夏休み親子列車教室	天竜
	～3月	しいたけ菌打ち体験	天竜		下旬	夏休みカヌー教室	天竜
3月	上旬	花桃まつり	天竜	9月	以降	手揉茶体験学習	春野
	第2日曜	不動川をきれいにする体験	春野		中旬	しいたけ狩り体験	天竜
	中旬	森林散策体験会	天竜		第2日曜	不動川をきれいにする体験	春野
4月	～11月	草木染め体験	水窪		中旬	水窪まつり 仮装コンクール	水窪
5月	～10月	陶芸体験	春野		中旬	天竜チャレンジサイクリング	天竜
	下旬	テニス体験教室	天竜				

体験型イベント
春・秋・冬期より
夏期が多い

各地で開催されている体験型イベント



しいたけ狩り体験



阿多古和紙作り体験



田植え・稲刈り体験



草木染め体験



バギー体験



とうもろこし収穫体験

HP 浜松田舎暮らしより

そこで、夏中心の体験型のイベントを、春・秋・冬にも、今以上に展開してみたいかがででしょうか。当然、季節毎に内容も変わるので、新鮮さもあります。また年間を通じて地域を知ってもらえるメリットもあるでしょう。

そして、イベントを繰り返し楽しみつつ達成感も得てもらうために、月毎の体験型のイベントを繋ぎ合わせ、一年間で完成するようなスタンプラリー形式にしてみたら面白いと思います。景品は各地域持ち寄りで、特産品を奮発し、注目度を高め、そしてスタンプラリーの参加者には、スタート時にその地域の店舗のクーポン券を渡し、利用していただきます。

スタンプラリーで体験型イベントツアー



参加者側のメリット

- ・達成感が味わえる
- ・楽しみながら地域の歴史や文化を知ることができる
- ・クーポン券で食事や入浴などがお得に利用できる
- ・豪華景品があたるかも

中山間地域のメリット

- ・全体的な知名度を上げることができる
- ・観光型の産業の売上げに期待ができる
(定住人口の増加につながる)
- ・体験型のイベント以外に複合させることもできる(集客等)

開催側の中山間地域のメリットは、体験型スタンプラリーが盛り上がることで全体的な知名度を上げることができます。また他のイベントと複合させることで、集客数の増加などの相乗効果も得られます。

年間を通したイベントにすることで、観光産業を中心とした地場産業が活性化されます。さらに夏に集中することなく、春・秋・冬も安定した交流人口が実現することで、交流者を対象にした職業を始める定住者の増加（定住人口の増加）も期待できます。

交流人口の増加



定住人口の増加

そして定住者が増加すると、その定住者たちが事業の安定・拡大をさせるために、交流人口増加の対策を講じ、活動することで地域が活性化されていきます。こうして交流人口と定住人口の双方の増加というプラスの循環（流れ）が生まれます。



ブルーベリー狩り



鮎のつかみどり

HP 浜松田舎暮らしより

M食品 Mさんファミリーの場合



: スタンプラリー

『  ブルーベリー狩り → 春野杉見学 →
本格手打ちそばで昼食 →



鮎のつかみどり体験+ご近所散策コースでウォーキング

→すみれの湯 』

1日体験イベントツアーのサンプルとして、とあるM食品を経営されるMさんファミリー向けのスケジュールをつくってみました。

（まず、百古里庵でブルーベリー狩りを楽しみ、その後、「春野杉」の見学をします。昼食で本格手打ちそばを堪能していただいた後は、「春野いきいき天狗村」で鮎のつかみどりとウォーキングを楽しんでいただきます。最後に一日の疲れを「すみれの湯」で癒していただくコースとなっています）

このような1日体験イベントコースを1年分、各地域で多種多様なものが、作成し実践することが、年間を通して交流人口の増加につながっていくことと思います。

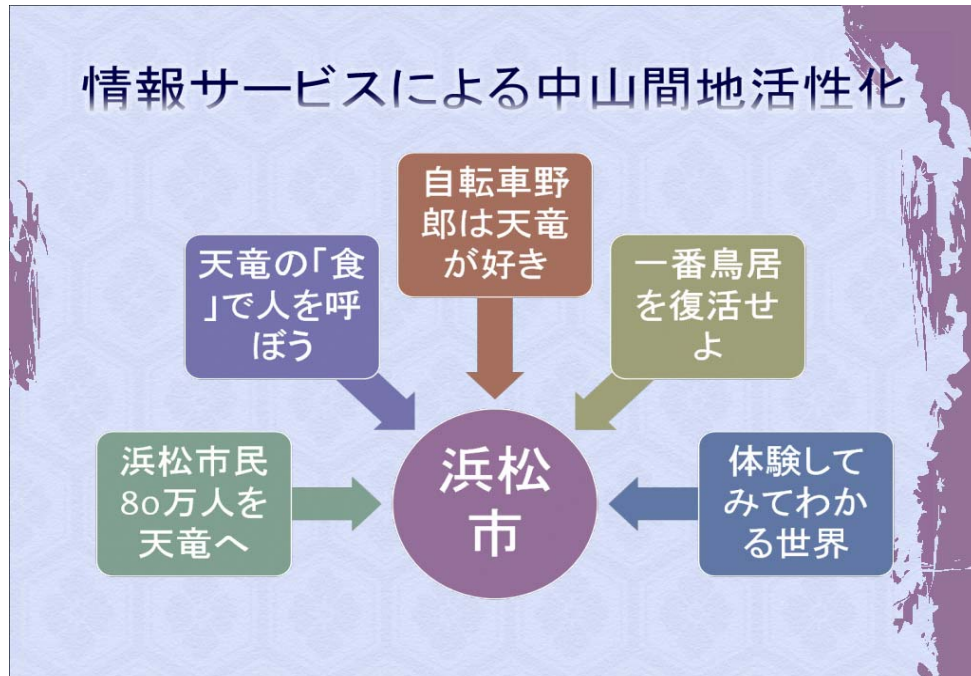
現在、各地で開催されている体験イベントの一つ一つは、魅力があり集客力がある反面、認知度が低く規模も小さい企画です。交流人口増加の為に、それらを一つにまとめ、浜松市の中山間地域全体の一大イベントとして立ち上げてみてはいかがでしょうか。

6 情報は世界を巡る

～地域情報プラットフォームづくり～

情報は世界を巡る

～地域情報プラットフォームづくり～



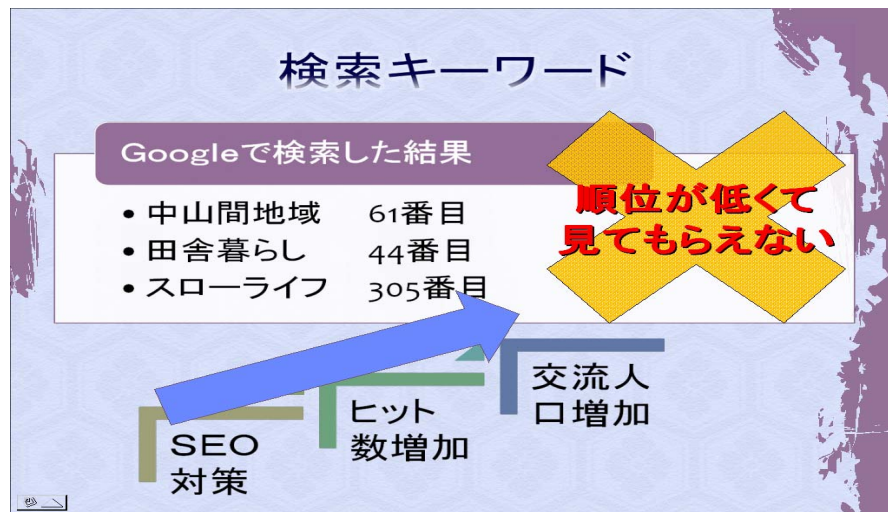
ここまで提案してきました「市民80万人を天竜へ」、「天竜の「食」で人を呼ぼう」、「自転車野郎は天竜が好き」、「一番鳥居を復活せよ」、「体験してみてわかる世界」の5つを実現することで、まず交流人口を増やして行きたい。そして浜松市の情報サービスに新たに付け加えていただくことで中山間地域活性化につなげることができればと思います。

さて、浜松市のホームページは、現在のままでも充実したコンテンツが掲載されています。見せ方はさて置き、情報に関して言えばかなりの範囲にわたり詳しく情報を掲載しています。

しかしホームページの豊富なコンテンツも皆さんに利用されなければ折角の情報も生きませんし、お金を掛けてサイトを運営している意味もありません。

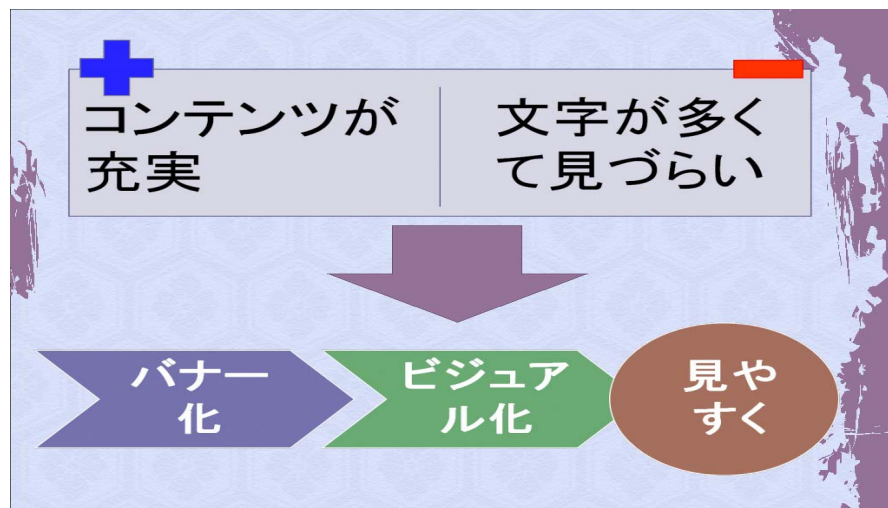
そこで、利用者が少ない理由とその対策について提案したいと思います。

【提案 1】



まず、利用者が少ない理由の一番目に、検索キーワードに対してヒットしない事が挙げられます。ちなみに今回のテーマである「中山間地域」や「田舎暮らし」また、「スローライフ」などを検索しても浜松市中山間地域関連はほとんど出てきません。そこでこれらキーワード検索に対しヒットするように対策を講じていただくことを提案します。

【提案 2】



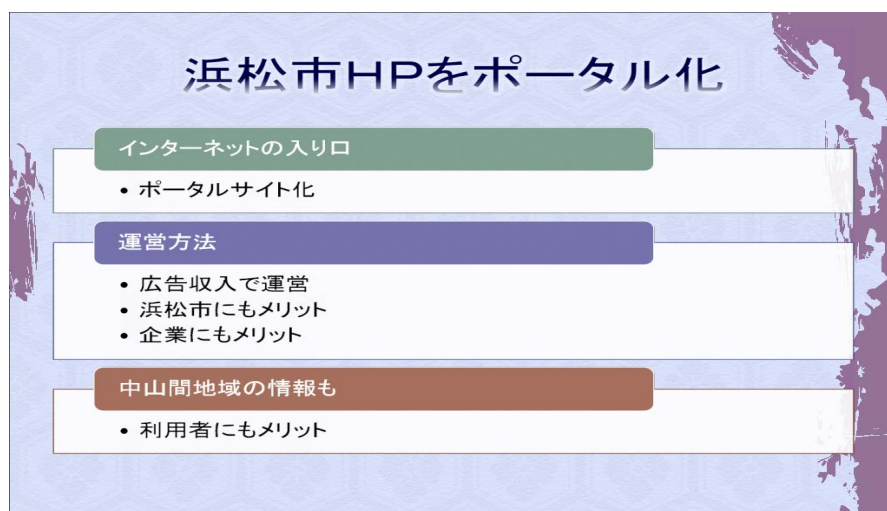
次に、利用者が少ない理由の二番目は、市のホームページは情報を多く掲載するためか、文字主体のページになっていて、検索したい内容の見出しを探し読みする煩わしさがあり、希望のコンテンツを見つけるのに時間がかかる事が挙げられます。そこでこれをバナー化、ビジュアル化してシンプルにコンテンツを選択できるページデザインにすることを提案します。

【提案 3】



そして、利用者が少ない理由の三番目は、「欲しい情報はアクセスして取りに来るもの。」というホームページ形式であるということです。メルマガサービスをするには受け取る側の同意が必要ですが、いつもネットを開けばそこからスタートするポータルサイト化すれば問題はありません。

中山間地域のイベント情報や浜松田舎暮らし羅針盤など、市から伝えたい情報を、ネットを開くたびにお知らせすることも出来ます。



さらには検索エンジンやバナー広告、スポンサー広告は当然載りますから、その広告収入でサイトの運営、さらに利益が出れば浜松市の収入にもなります。

これからの時代は、行政機関運営によるポータルサイトがあっても良

いし、80万人プラス α の活用するポータルサイトであれば民間企業はそこにスポンサー広告を出すことで効率的に宣伝し自社ホームページに誘導出来るメリットもあります。

そして市は、企業側にメリットがあるスポンサー広告を出したいならば、税金の滞納がない、所在があきらか、などのいくつかの掲載基準を設けて広告を募集し掲載することで利用者（市民）の「安心感」につなげられるポータルサイト運営のメリットがあります。まさに情報は双方にとって宝になるのです。

そこで浜松市のホームページをポータルサイト化して市民や企業の利用者を増やしていただくことを提案します。

以上、3つをスタートすることで情報を効率的に伝え、交流人口の増加、中山間地域の活性化につなげて行けると考えます。

第二章 定住人口の増加策

1 移住して来た方に聞く

～結局何が大変でした？～

移住して来た方に聞く

～結局何が大変でした？～

宇野大介 S54 年生まれ 静岡県伊東市出身
宇野まどか S58 年生まれ 愛知県出身知多市出身
ご夫妻ともに京都大学農学部卒
H21 浜松市春野町砂川地区に移住お茶農家スタート



1 お茶農家をやろうと思ったきっかけは？

知多市に住んでいた時三重県松阪市（旧飯南町）にお茶畑付きの住居を大学の先輩が紹介してくれたことがあったので、お茶もありかなと思った。

2 なぜ春野に決めたのか？他に候補は？

浜松市より農業研修のための補助金を30万円×2人分＝60万円いただけた。この補助金はあったにも関わらず定着しておらず、当局はこの事例をなんとしても成功させたかったようで協力的であった。

3 住居の情報はどのように手にいれましたか？

当初不動産屋を通じ知多半島周辺で探していたが2千万円ぐらいで高すぎた、また、不動産屋が胡散臭く感じた。春野は大学関係者の先輩が春野に居たため紹介をしていただいた。現在移り住んで2軒目の家に賃貸中です。

4 畑の賃貸情報はどのように手にいれましたか？

上記の先輩の紹介、年額一反（300坪）1万円で6反借りています。その他共同で3haやっています。

5 両親、ご家族の反対はなかったのか？

最初は大反対だったが最近では理解がある（奥様のほうが就農に関しては中学生の時から希望があったとのことで、奥様のほうが旦那をそのかしたのではないかととのことで奥様の実家のほうが申し訳ない気持ちでいっぱいだったそうです）

6 移住にあたり不安なことはありませんでしたか？

住む家がないと何も始まらない、農家は一軒家じゃないとできない

7 毎日の生活パターンを教えてください

午前7時起床、8時から働き始め、何かしらやることがある（茶畑、お茶工場の整備、家の修理、共同の作業もある共同作業は17時終了）雨が降ると休んで豊岡のカインズに行ったりする、ネット通販で物を買うこともある、医者はずっと大変、端境期は週2回中学生相手に塾をやっている、繁忙期は週1回

8 移住して変わったことを教えてください（自分、周囲）

健康になった（空気がよい、ストレスがない）、お酒に誘われることが多い、徒歩30分圏内のお年寄りが歩いて子供を見に来る（周囲を元気にさせる）

9 移住して楽しかったこと、苦しかったこと、予想外だったこと、不便を感じたことなどを教えてください

今いるのは砂川（いさがわ）地区だが、集落ごとに文化があり隣の集落（泉平地区）との交流がない、たとえば、隣の集落でよい空き物件が出て住めないと思います。そんなことをしたら今までのお付き合いが水泡に帰してしまいます。

10 地元の人との交流など不安はありませんでしたか？

お年寄りの方との付き合いはうまくいっている、自治会費が年額2万円は高いと思います。ママ友がいません。

12 将来の不安はありませんか？

同級生が11人と子供の数が少なすぎます。お茶市場の将来がとても不安です。

1 3 宇野さんが考える農業による活性化とはどのような物か？

お茶を中心に頑張りたい、有機もやりたい、（春野はやりやすい）農産加工、農家レストラン、グリーンツーリズム（都市と農村の交流）にも興味があります。

1 4 行政への要望は？旧浜松市住民への要望はありますか？

仲間を増やしたい。住む場所を探すのを手伝って欲しい、若い人は借りるしかないし農家をやるなら一軒家でなければならないからです。（リタイア組は購入している）

1 5 田舎暮らしを考えている人にメッセージをお願いします

泊まって行ってほしい、なるべく若い人にきてほしいです。

1 6 浜松市長にご意見、ご要望等メッセージをお願いします

行政の手を借りずに自分たちで何とかしたいという思いがあります。
市長に一度来てもらって泊まって行って欲しいです。
お金ではない。
猪肉を生かしてない。（加工施設がない）
春野高校を何とか存続して欲しい。（春野中→春野高の流れを止めないで）高校がなくなると若者がいなくなる

※ グリーンツーリズム

1. 農林水産物を介した通じた活動（産直・直売所など）
2. イベント（ふるさとまつり・農林まつりなど）など従来のものから
3. 農業・農村体験（市民農園、田植え・稲刈り、乳搾り）
4. 学校教育における農村や農業とのふれあい
5. 自然の営みとのふれあいまで、幅広く都市と農山漁村との交流一般を指すことが多くなっている。

2 ターゲットを決めた定住策を

～階層別住宅促進～

ターゲットを決めた定住策を

～階層別住宅促進～

1 若者と農業にターゲットを絞り込む

中山間地域の急激な人口の減少、少子高齢化が進む一方、宇野夫妻のように自らが好んで移住してこられる方もいます。特に今後の地域の活性化を考えると、全方位で対策を考えるのではなく若い方や農業といったものにターゲットを絞り込んで解決策を探っていくべきと考えました。宇野夫妻のように移住はしたいのだけど、その方法が分からなかったり、住居がなかなか見付からない又は見付けられない方に対して、『住居をどの様に提供していけるか？』その物件がマンションやアパートだった場合、『農業をやる上で支障がない仕組みは？』『農業団地のようなものを作ってみては？』といったことを解決できれば定住化に繋がるのではないかと考えます。

2 既存の空き家を活かし若い方の定住に繋げる

住居が見付からないという問題に対しては、下記の写真のような空き家を市で買い上げ、市営住宅として賃貸にしたらどうでしょうか？しかし、若い方は特に家賃が相場より高いとなかなか借りられないということになりますので、家賃の一部は補助金として市が援助し格安な料金設定にできれば若い方に対しての住居確保に繋がると考えます。



秋葉の空き家



佐久間の空き家

また、農業を希望する方には、下記の写真左側のように市の既存の資産を活用して市営マンションや市営アパートとし、農機具の置き場や作物の出荷準備をする場所には、下記の写真右側のような空き地を区画割りして契約者が使える場所とすれば、一家屋と同じ機能を持つ住居の確保に繋がると思います。



犬居教員宿舎

教員宿舎前空き地

3 特産物を作り定住人口の増加に繋げる

この地域は、収穫時期の作物を動物（猪・サル）等に食い荒らされる事が多く見られます。しかし地元農家の方に確認したところ、農家の方は動物の駆除やわなを仕掛けることが出来ない（動物保護で禁止となっている）のだそうです。また、動物の駆除をする猟師の数も減少し、現役の方も高齢になってきているのが現状です。

しかし見方を変えれば、それは資源があると考えることができます。猟師の若返りを図ると同時に地元の方とタイアップし、動物を処分するのではなく天竜地区名産品の一つとしてブランド化することで、ビジネスとして成り立たせることはできないでしょうか？

その場合は、猪肉の加工工場を下記の写真のような空き地に建設をすれば、雇用にも結び付きますし、ビジネスとして成り立てば人口の増加にも繋がっていくと考えます。



春野地区の空き地

4 既存の景観や土地を活かして滞在できる場を提供する

ここまでは定住ということで話をしてきましたが、滞在することからも地域を活性化させ最終的には定住人口の増加に繋がる可能性があると考えました。

それは『クラインガルテンを浜松に！』という考えです。

『クラインガルテン』とは、都市部から週末や長期休暇を利用し、ラウベと呼ばれる休憩小屋に滞在して食事や宿泊をしながら野菜や花の栽培ができる滞在型市民農園のことです。ドイツが発祥の地で、クラインガルテンはドイツ語で「小さな庭」を意味します。

市内では、天竜区に民間で運営されているものがありますが、市が運営している施設はまだありません。以前にもこの提言は行われていますが、実現していないのが現状です。

一般的には農地法の関係で実現は難しいとされていますが、『市民農園整備促進法制度』などを利用すれば、農地に賃貸物件を建てることも法的に可能となります。

農地を市が買い上げ、補助事業として浜松の中山間地域にクラインガルテン園を整備し、地元の農家・住民の皆さんと地元の行政が一緒になって滞在型市民農園事業を立ち上げていくというのはいかがでしょうか？



茨城県八千代町 HP



(株)ジャパンプランニング

笠間周遊散策 笠間情報より

このような施設を作ると経済効果だけにとどまらず、周辺地域住民と利用者が定期的に交流を深めることになるので、利用者が地域自然の保全活動や昔ながらの手法を取り入れた農業を実践するようになります。また、都会の生活にはない田舎生活のリズムやぬくもりに触れることができます。

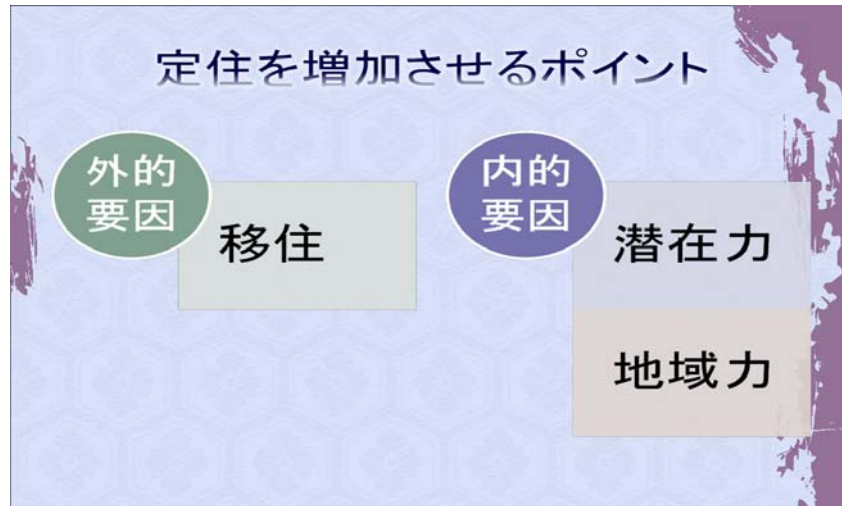
周辺地域住民の方々は、都市部の利用者の話を聞き、改めて自分の住んでいる地域の良さを再確認することができるのではないのでしょうか？結果、永住するまでいかなくても滞在者が増えることによって地域の価値は向上しますし、地元住民のやる気に繋がり最終的には地域が活性化し、定住する人が増加する可能性があると考えます。

3 情報の一元化で魅力アップ

～広告マン～から見た「浜松田舎暮らしの」PR法～

情報の一元化で魅力アップ

～広告マンから見た「浜松田舎暮らしの」PR法～

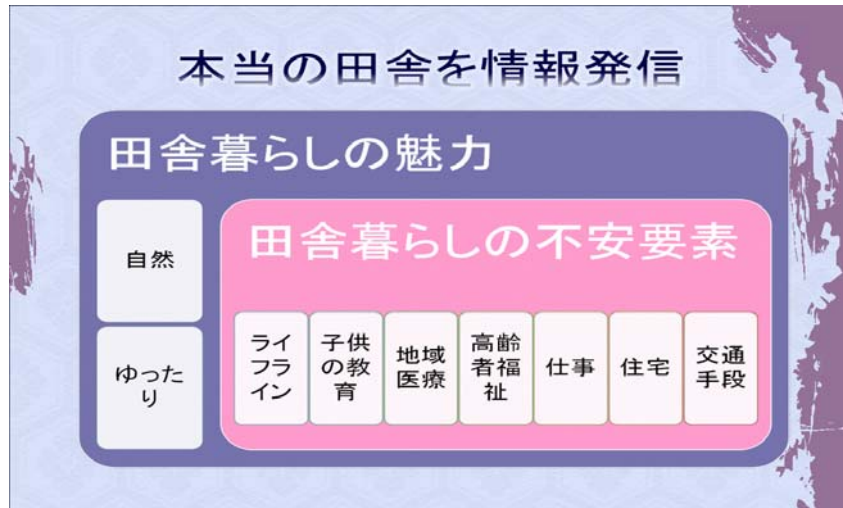


定住人口を増やすためのポイントは2つあります。それは移住による外的要因と、定住者の地域力向上などの内的要因です。

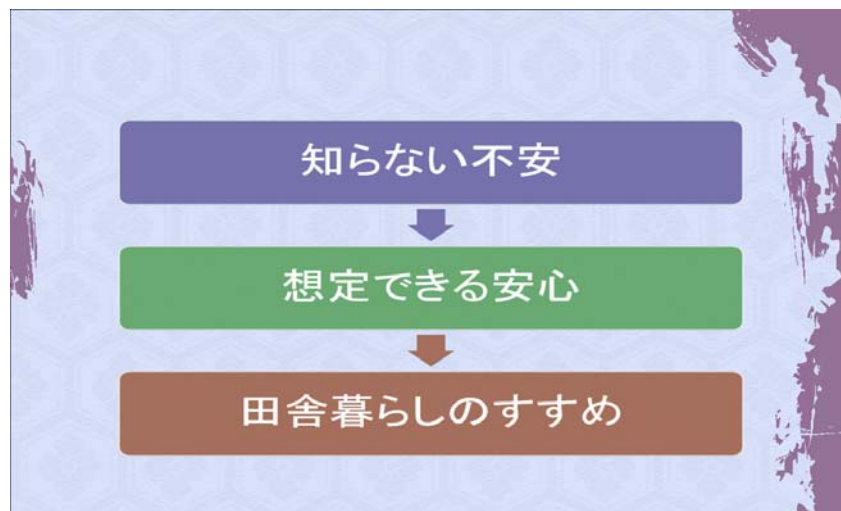


【外的要因について】

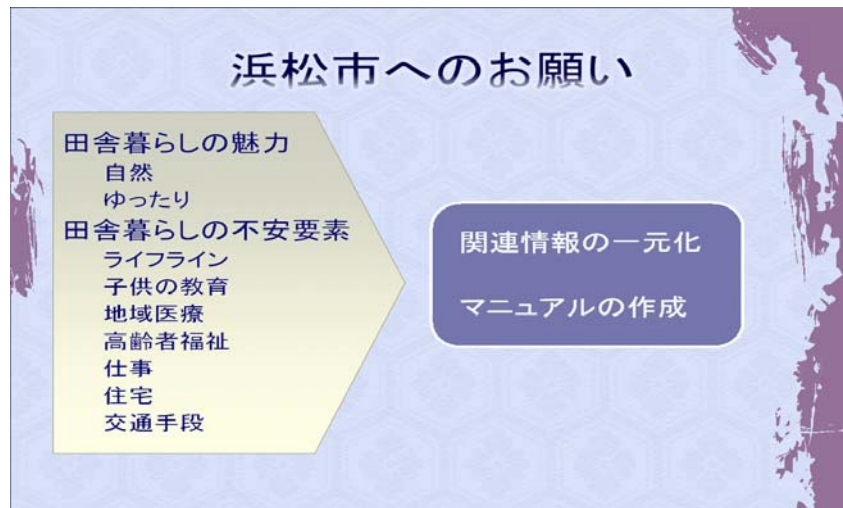
交流人口の増加は、「仕事」に関するもの、「レジャー」に関するものなど、ある意味その土地の良い点を効率的に伝えることで人を集めることが出来ます。同じように、定住人口の増加もその土地の「魅力」や生活するために必要な「仕事」や「住まい環境」など良い点が定住するためのきっかけになります。



しかし実は、定住を決意するのに重要な要素は、良い点だけではないのです。電気・ガス・水道などのライフライン、子どもの教育や地域医療、高齢者福祉に仕事や住宅、交通手段に買物、さらには自治会や田舎のしきたりなど、田舎は都会に比べて不便な事がたくさんあるのです。それでもリスクを上回る良い点があれば問題はないのですが、通常はためらいます。



それならば逆転の発想で良い点だけを伝えるのではなく、あえて田舎で暮らす「弱点」を伝えることから始めるのはいかがでしょう。これは「リスクがあることをあらかじめ知ることによって避ける事が出来る。」という考えです。事前にリスクを想定しておくことで知らないからこそ怖いことに対して「想定できる安心」に変えることができるのです。それが本当の「田舎暮らしのすすめ」になるのではないのでしょうか？



そこで浜松市が田舎暮らしの弱点になりうる関連情報を一元化し、サイトに掲載してはいかがでしょうか。また、同時に解決策など、ベターな選択が出来るためのマニュアル作成も合わせてお願いいたします。



続きまして、「内的要因について」です。

現在 Google で「定年 田舎暮らし」を検索すると 128,000 件、「若者 田舎暮らし」を検索すると 203,000 件のヒットがあります。すでに情報量は約 2 倍に迫る勢いで、情報の分野でも「定年退職者」から「若者」にシフトしてきています。しかしながら、浜松中山間地に移り住む人の多くは定年退職者による田舎暮らしです。なぜでしょうか。

それは、現在の定年退職者は年金で生活が可能ですありますが、若者が移り住むには生活するための仕事が必要だからです。

そのため浜松中山間地域も定住するための安定的な仕事の確保が必須条件となります。

ここで全国に目を移しますと、現在田舎ブランド化に成功した地域のひとつに高知県の馬路村という村があります。近隣が合併する中、馬路村は単独での生き残りを図り、馬路村の製品であることを全面に出して村自体を売る「おらが村方式」による活動を通じ、ゆず加工品の全国ブランド化に成功している事例があります。

そこでわが町浜松も、田舎情報を発信共有し田舎ブランドの確立で仕事に結び付くよう、市がその環境を整備し全国に情報発信していただくようお願いいたします。

以上２つをスタートすることで情報を仕事につなげ、やがて定住人口の増加につながると考えます。

4 伝説は創り出せ

～他の街の成功事例に学ぶ～

伝説は創り出せ

～他の街の成功事例に学ぶ～

1 伝説はブームとは違う

日本人は良く熱しやすく冷めやすいと言われます。いわゆるブームというものです。時の話題を集めた人でも、あの人は今、ということがよくあります。テレビを始めとするマスコミが騒ぎ立てることでブームというのは起き、新語流行語大賞に選ばれたが翌年には消えてしまったということが典型的な例です。「現代用語の基礎知識」を開いてみると、一年一年のサイクルでのブームが起き、過ぎ去っていき忘れ去られているものが大変多く見受けられます。日本人の変わり身の早さには驚く限りです。

2 町起こし（伝説）が第一歩

2010 年 NHK ドラマ「ゲゲゲの女房」に始まった境港市のブームがあります。妖怪をテーマにした町起こしが話題を呼びました。かつての寂れた町の姿とは比べものにならない様子がテレビに映しだされておりました。それは、町全体が明るく、観光客をお迎えし語り合い一日一日を楽しんでいる姿でした。そのブームを何年も続けていき活気有る町にしないと、また元の寂れた町に逆戻りしてしまいます。

ゲゲゲの鬼太郎ブームが何年も続き、安定した人気を得ることが出来た時、はじめて伝説が生まれたと言えるのです。マスコミを使いスポットを当てて、忘れられないことが伝説創りへの一番の対策と言えます。



2003 年ユーキャン新語・流行語大賞受賞
「テツ and トモ （HP 自由国民社より）」



（HP さかなと鬼太郎のまち
境港市観光ガイドより）

3. 伝説を成功させるために

では、全国に伝説といえるような定住化を成し遂げた成功例があるかという、そのような事例がいくつかあります。

その多くは、無から有を作り上げたと言うよりも、その地域に元々何らかの未活用の資源があり、それを活かして成功したという例であります。

(1) 常磐スパリゾートハワイアンズの例

例えば、常磐スパリゾートハワイアンズです。スタート時、常磐ハワイアンセンターという名前で、社員旅行や家族旅行・グループ旅行と爆発的な人気を誇ったリゾート施設です。

元々炭坑の町でしたが、石炭から石油へとエネルギーの転換がきっかけで町の産業が窮地を迎えました。そこで、石炭を掘るときに邪魔になっていた温泉を用いることで成功を収めました。

(2) 甲府鳥もつ煮の例

食の世界の例が、捨てられていた素材を活用した甲府鳥もつ煮です。

甲府の街で肉屋さんが蕎麦屋さんに「鳥肉の部位が残ってしまい捨てるしかないのでもらって下さい。」と相談したことが鳥もつ煮の誕生秘話です。試行錯誤の結果鳥もつ煮は生まれました。

甲府の街での蕎麦屋では鳥もつ煮が付き合いになるまでになっていきました。数年前から開催されているB級グルメの大会でもグランプリを獲得しています。初代B級グルメグランプリの富士宮やきそばにしても、過疎地における新産業となり、その食材を食すためにツアーを組む団体までいるのですから、地元雇用を生み出し、経済効果を上げているのです。



(HP スパリゾートハワイアンズより) (HP 甲府名物・甲府鳥もつ煮より)

4・中山間地域に伝説を創り出すための基礎

全国の成功事例には、何か基礎になる物があり、それをうまく活用できたことで伝説が生まれたのです。では、浜松はとを考えて見ますと「山と川に囲まれた温暖な気候」がその基礎と考えます。その利点を生かしたボート競技と木材産業を挙げてみます。

(1) ボート競技から伝説を創る

天竜には、全国に名を馳せている船明ダム湖の天竜ボート競技場があります。2005年には全国有数の2000メートルのコースを持つこのボート場が当時の総務、文部科学両省からスポーツ拠点づくり推進事業に選ばれています。1989年6月完成、翌年第一回全国高校選抜競漕大会 91年全国高校総体の会場となり、ボートの町天竜の名は全国に広まっていったのです。ここの強みは、気候に恵まれ、年間を通してのトレーニングが出来ることです。

通年的な雇用のためには、通年的に人が来るとことが鍵となります。その一方、静岡国体で建てられた合宿施設が、その後、利用されていないという資源の未活用があります。これを通年的な合宿所として活用することが出来ないでしょうか。マイナーな観があるボート競技ですが、オリンピックでメダルを獲るようなスターが誕生すれば、一気にそのステータスを押し上げることができます。アテネ五輪代表の内山佳保里選手が二俣高校出身でしたが、知らない人がほとんどではないでしょうか。



(HP 浜松市 天竜ボート場より)

(2) 木材資源から将棋で伝説を創る

木材資源は、住宅への活用と言う発想はもちろん大切ですが、他への利用も積極的に推進すべきです。

例えば将棋の駒や将棋の盤です。

① 伝統工芸品への道

どの世界にも人間国宝・名人と言われる人物はおります。

将棋の駒は、安いもので1,000円位からものによっては80,000円位のものもあります。将棋盤にしても、折り畳み式で1,000円位、将棋盤の厚さ1寸で5,000円位から、名人の高級な作品となると駒も盤も600,000円以上と高額です。

我が地域でも名人を育て木材で伝説をつくことは可能です。就職難の時代、その頑張っている姿が感動を呼び、手に職をと、全国から弟子入りする若者が集まるのです。

② なぜ将棋を伝説創りに勧めるのか

今、少年達に限らず公共の場でのマナーが問題になっています。マナーは礼儀であり、同じ言葉です。

将棋を指すことは、礼儀を学ぶ事につながります。日本将棋連盟の安次嶺隆幸氏は小学校教諭という立場から、将棋の礼が精神力を生み、敗者は悔しさを折りたたみ、勝者は相手の気持ちを察する、そこから自然に心がはぐくまれていくと言われています。

これは、著書「将棋をやっている子供は、なぜ『伸びしろ』が大きいのか？」に記載されております。人間であるべき最低限のマナーを将棋によって植え付けることもいいのではないのでしょうか。



(HP天童市の観光スポットより)



棋士のサイン入り扇子

5 まとめ

この地域には人が好む美しい自然があります。訪れたときの魅力は十分です。ただ伝説というものを創るためには、その自然にたより、待っていたでは一步も先に進みません。全く駄目なことなのです。何かをもとに仕掛けていかなければなりません。そして仕掛けたことを根気強く続けていくことが大切なのです。先に取り上げた「フラガール」という映画では、炭坑の廃止で過疎化する町が、常磐スパリゾートハワイアンズを立ち上げた、紆余曲折の物語が描かれています。浜松においても、中山間地域の定住・交流のための諸作を講じながら、後々映画となるような伝説をつくっていきましょう。我々の時代、創世記としてのチャンスは、第二東名高速道路の開通も後押し、老若男女が寛げる空間この地域には人が好む美しい自然があります。そして移住しやすい町としてのアピールをすることが出来ることも伝説の夜明けと言えるでしょう。



中山間地域・定住伝説の渡し初めに！！！！

○資料・参考文献等

1：交流人口を増加させる

①

【公開資料・団体資料】

浜松市教育委員会資料

【参考HP】

浜松市教育委員会公式HP

<http://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/shikyoi/index.htm>

【公開資料・団体資料】

山里いきいきプラン

浜松市農業振興基本計画

浜松市食育推進計画平成20年～24年度

【発行者】

浜松市

浜松市

浜松市

④

【参考書籍】

【著者】

【出版社】

読売新聞昭和17年9月10日遠州版

読売新聞社

はままつ歴史発見

神谷昌志

静岡新聞社

東海展望1972年4月号

(株)東海展望

ふるさとの歴史シリーズ

(株)郷土出版社

我が郷土400年史

神谷昌志

第87回浜商同窓会OB祭

浜松市民の80年

大石益光

静岡新聞社

東海展望1982年6月号

(株)東海展望

秋葉信仰

田村貞雄

雄山閣出版

2：定住人口を増加させる

④

【参考HP】

自由国民社・ユーキャン 新語・流行語大賞

<http://singo.jiyu.co.jp/index.html>

さかなと鬼太郎のまち

【境港市観光ガイド】

<http://www.sakaiminato.net/>

「銀河鉄道999」「宇宙戦艦ヤマト」のシンボルロードモニュメント【敦賀商工会議所】

<http://www.tsuruga.or.jp/moni/>

スパリゾートハワイアンズ

【じゃらん】

<http://www.jalan.net/jalan/doc/theme/park/hawaiians.html>

ウィキペディア	【フラガール】
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%83%A9%E3%82%AC%E3%83%BC%E3%83%AB	
甲府名物・甲府鳥モツ煮	【甲府鳥モツ煮MAP】
http://www7b.biglobe.ne.jp/torimotsu/toriatsukaiten.htm	
天竜ボート場	【浜松市政資料館】
http://blog.goo.ne.jp/hama7659/e/00f5f1839c6abf8658046e01088937aa	
景色・天竜ボート場	【浜松タダスポット】
http://tada.ff2002.com/index.php?topic=tenryuu-boat-jou	
回想・ボートの聖地天竜	【浜松市天竜区 区振興課】
http://www.inh.co.jp/~sara/topics/2010/2010_tenryu_boatjyo_kinensi.pdf	
天竜川と夢の架け橋	【国土交通省】
http://www.cbr.mlit.go.jp/road/torupa/toukou/shizuoka/yumeno_kakehashi.htm	
天童市の観光スポット	【天童市の観光ガイド】
http://www.ikechang.com/navi0.htm	
駒師・富月の世界	【個人HP】
http://www.fugetu.net/	
工芸士・松浦の世界	【個人HP】
http://www.matuura.info/	
日本将棋連盟	【社団法人日本将棋連盟】
http://www.shogi.or.jp/	
NHK囲碁と将棋（NHK将棋講座）	【NHK】
http://cgi2.nhk.or.jp/goshogi/shogi/	
ウィキペディア	【富士宮市】
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AF%8C%E5%A3%AB%E5%AE%AE%E5%B8%82#.E5.9C.B0.E5.BD.A2	
ウィキペディア	【富士宮やきそば】
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AF%8C%E5%A3%AB%E5%AE%AE%E3%82%84%E3%81%8D%E3%81%9D%E3%81%B0	

【参考書籍】

現代用語の基礎知識
将棋世界

【著者】

清水均（編集）
日本将棋連盟

【出版社】

自由国民社
大日本印刷株式会社

将棋年鑑

日本将棋連盟

大日本印刷株式会社

全国支部会員名簿

日本将棋連盟

大日本印刷株式会社

将棋をやってる子供は、

なぜ「伸びしろ」が大きいのか？

安次嶺 隆幸

講談社

おわりに

お読みいただき、ありがとうございました。ご感想は如何でしたでしょうか。

今回提言活動を進めていくにつれ、一つの結論に行き着くこととなりました。それは、この手の提言で必ず言われることでありますが、結局は地元の人々のやる気次第である、ということです。成功するもしないも地元次第なのだということであり、間違えなくそれが正しい答えであります。企業に例えるなら、同じ業種でも繁盛する会社としない会社があるということでしょうか。しかし、会社が繁盛しない原因の多くは社長に問題があり、中山間地域で言い換えれば地域のリーダーが社長となりますが、その地域のリーダーにすべてを任せるには、あまりに責任が重すぎます。そこで、その補佐をし、アドバイスをすることでやる気を引き出し良い方向へ導くのが行政の役割ではないかと考えます。やはり上手くいっている中山間地域を見ますと、行政と地域住民が互いに尊重し合い、手を携えて積極的に行動しています。今後、世界は更なる混迷の時代となり、日本においては地方行政の役割がさらに重要となり、住民としっかり向き合う対応が強く求められるものと考えます。地方行政の真価が問われる時代であり、その真価を発揮できるのが浜松市であると確信しております。浜松市民の為、今まで以上の積極的な関与と行動をお願いしたいと考えております。

とはいえ浜松市商工会議所青年部としても、やりっぱなしではいけません。提言した責任において、今後も中山間地域の問題には積極的に取り組み、浜松市ともしっかりと協力しながら行動していきたいと考えております。そして一つの具体的な行動として、今回交流が深まった天竜商工会の青年部の方々とともに継続的な交流をもち、常に仕事の創造や具体的な活動をしてまいります。

今回の提言が、地域みなさんと浜松市が今一度考え、手を取り合い行動するきっかけとなり、「ひとつの浜松」実現の為の一助に成れば幸いです。

最後に、この提言書作成にあたり調査・取材等にご協力いただいた関係各方面の方々に、この場をお借りしまして深く感謝申し上げます。

政策提言委員会一同